

校長便り 怒濤 高

県立糸満高校

平成29年1月10日(火)
校長 辻上 弘子
第 17 号

明けましておめでとうございます

皆さまにおかれましては、お揃いで良い新年を迎えられたことと思います。学年の集大成、3学期が始まりました。「酉年の今年、鳥が卵を温めるかの如く、皆さんも1つ1つのやるべき事をしっかりとやって欲しい」と挨拶した始業式。迎えた年が、彼らの大きなステップアップの年となる予感が致しました。

エネルギーほとばしる糸高生 シュートする姿プロ選手かと思った

早朝から放課後まで、それぞれ一生懸命 練習に取り組む姿は感動的であります。シュートが決まらなかった時のアレッと言う顔、目測を誤ってぎりぎりで落ちたシャトルに悔しがる様、背筋を伸ばした円陣で先輩の教えを聞く姿、オフの練習こそが力になるとばかりに、目一杯身体を酷使するところ、こんな勢いのあるボールにあたったら、骨折するんじゃないかというくらいのスピードでがんがん攻めていくところ、コート長い方を5歩くらいで跳ぶように走る姿。この部活をやりたいと自分で選んで自分で活動することの素晴らしさが見えるような気が致します。選択できることの幸せ、自分で選択したからこそ、のめり込めるのかもしれない。次年度から、早朝講座を選択制にしました。特進クラスも普通クラスも混合での実施となります。子どもらが誰に強制されたわけでもなく、純粹に自分が必要な講座を、受けたい講座を自分で選んで、自分で学ぶ。力量溢れる先生方に導かれつつも、大いに主体性を発揮して、この糸高で力をつけて欲しいと新年に強く思いました。文武一道。決して部活担当生徒と勉強担当生徒が混在での実績を出すのではなく、一人の生徒が部活も楽しみかつ勉強もし、将来への道筋を見つける。そんな学びへと進化していく糸高生の姿を予感した1年の始まりでした。